

聖地を守り抜こう

「コシヒカリの聖地を守り抜いてください！」南魚沼市へのふるさと納税の寄付者から多くの励ましの声をいただいています。寄付時に添えられたメールには「昨年と変わらずおいしい」など、好評の書き込みが圧倒的です。市長宛てにお手紙を頂戴することも。

今夏、初秋のかつて経験したことのない猛暑と水不足。高温障害による等級の低下。収穫の秋を手放しで喜べずに不安いっぱいだった私たちでした。しかし、それを打ち消してくれるような、寄せられる多くの温かい声があることを南魚沼の全農家にお伝えしたい。本当にありがたく涙が出るような思いです。

今年度のふるさと納税寄付額も新米期となつてから衰えるどころか、なんと前年同日比で1.5倍を超える推移で、正直驚愕しています。

「この試練を契機に規模の小さい家族経営などの農家は耕作をやめるのではないか」「大規模農家は影響甚大」など、農業団体など関係者からの声は刈取りが進むにつれ大きくなっていました。「皆、下を向いている」とも。

市は、苦境にあえぐ農家に「今こそ少しでも寄り添う支援を」の思いで、10月に県内自治体のどこよりも早く、過去にない大型の農業支援策を決定しました。11月半ばから市内の対象となる全農家に申請書類が届いたはずですが。

緊急の減収支援3億8,500万円を主に総額約4億円。大型の宣伝攻勢もかけることに。現在、多くの往来がある羽田空港第1ターミナル駅のホームには「南魚沼産コシヒカリ」の広告が掲示され、注目を集めています。(12月31日まで)

今回の対策以前の6月から行っていた、東海道新幹線の座席に配置されている情報誌「ウェッジ」への掲載は年末までの7か月間の長期掲載。目次ページ隣の南魚沼産米の広告ですが、この反響は大きく、それを裏付けるように、中京・阪神方面からの寄付件数の増加が顕著に表れてきています。加えて新聞の全国紙や首都圏有力紙への一面カラー広告も。

温暖化、その恒常化への不安は確かにある。しかし、聖地を自認する南魚沼がうつむいているわけにはいかない。多くの声に応えていきましょ。奮起！

シリーズ  
第128回

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

マラウイ共和国 ウィッシーズ マチャヤさん

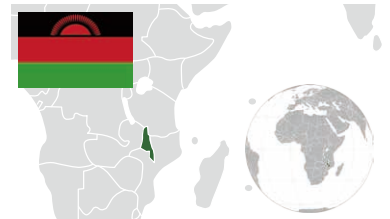


私の国はこんなところ

マラウイはアフリカ大陸南東部の内陸に位置する小さな国です。日本の国土面積のおよそ1/3の大きさです。新鮮な水と空気、美しい湖や川に恵まれています。マラウイ湖には固有種の淡水魚が多く生息しているのが特徴です。代表的な魚はチャンボです。見た目は格好良く、とてもおいしい魚です。また、ニイカ国立公園、リオンデ国立公園、レングウェ・ゲーム・リザーブなどで野生動物が保護されています。その他、観光スポットは、ムワラ・ワ・ムフィニがおすすめです。自然が成したとされる傷跡が刻まれた不思議な岩を見ることができます。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼で異文化を体験する生活は、とても充実しています。日本全国どこでも同じだとは思いますが、老若男女を問わず、誰もが平等に扱われることや、おもてなしや敬意の払い方など、人の接し方がとても印象的です。人を含むすべてのものがうまく組織化されていることや、普段の生活でも、誰もが何をすべきか先を見越して行動していることを目の当たりにしてきました。何よりも、治安がとても良いです。



編集  
後記

早いもので今年も残すところ1か月となりました。みなさんにとって今年はどうのような1年だったでしょうか？「終わりよければすべてよし」となるように、慌ただしくなる中でも残り1か月を大切に過ごしていきたいと思います。(T・H)

今月の  
表紙

10月24日(火)、塩沢除雪ステーションで南魚沼地域合同の除雪出動式を開催しました。参加した石打小学校の児童と上関保育園の園児は、大きな除雪機械を間近で見学し、興味深そうに機械の動きを観察していました。

市民の動き 令和5年10月末日現在 ( )は対前月比

●人口 53,421人(-52) / 男 26,141人(-27) 女 27,280人(-25) ●世帯数 20,393戸(+13)